

経営比較分析表（令和4年度決算）

佐賀県 唐津市

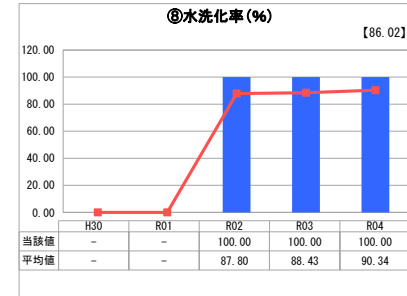
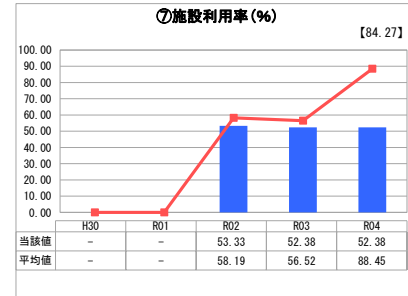
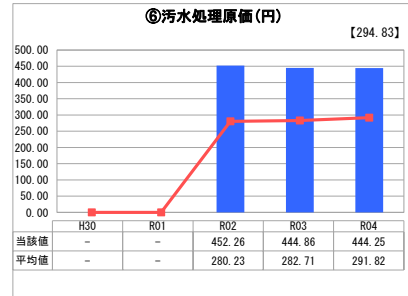
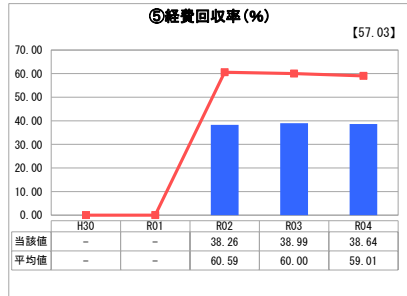
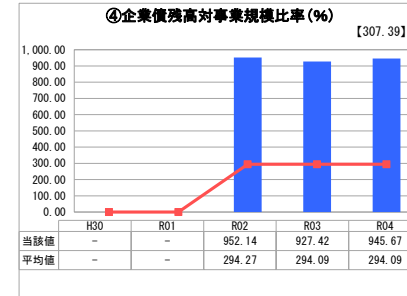
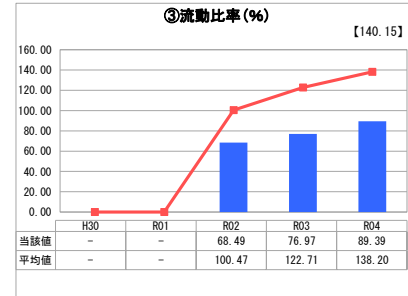
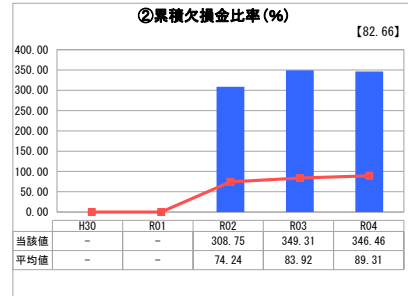
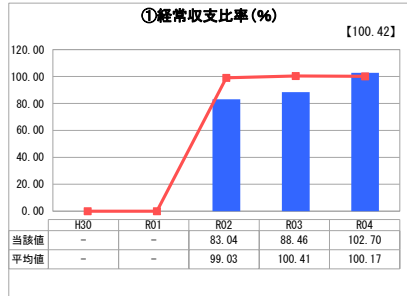
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	16.70	5.04	100.00	3,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
116,972	487.60	239.89
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,867	169.79	34.55

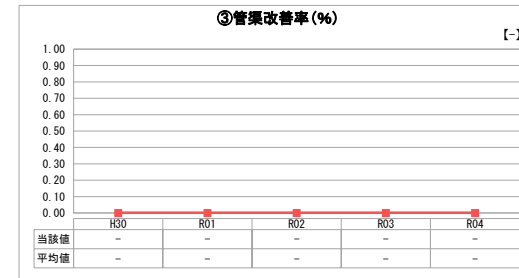
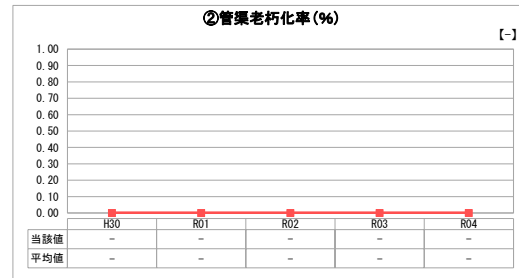
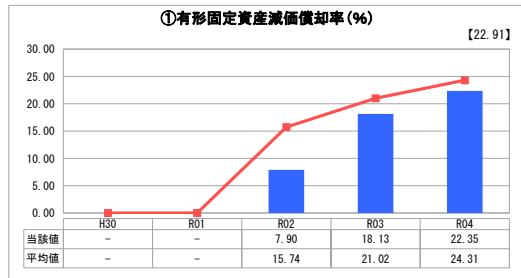
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率について、企業債元金償還金に充当した他会計補助金の収益化を始めたことにより、長期前受金戻入額が増加したことで、当年度は黒字となり、100%を超えている。
- ② 累積欠損金比率について、当年度が黒字だったため、令和3年度と比較しわずかに数値が改善している。
- ③ 流動比率については、令和3年度から増加しているが、相対的に低い水準であり、短期的な支払い能力が万全な状態とは言えない状況である。
- ④ 企業債残高対事業規模比率について、企業債残高は減少しているが、料金収入の減少割合が大きく、数値が増加している。
- ⑤ 経費回収率及び⑥ 汚水処理原価については、令和3年度とほぼ同程度の数値であり、依然として維持管理費が高く、使用料で賄えていない状況に陥っている。
- ⑦ 施設利用率については、令和3年度と同じ数値でとどまっている。
- ⑧ 水洗化率については、100%となっている。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率について、減価償却累計額の増加により数値が増加した。

全体総括

○ 経営の健全性・効率性について、汚水処理原価が高く、使用料で賄えていない状況にあり、今後益々その傾向が強くなる見込みである。経費回収率が低い水準で推移しており、業務見直しによる費用削減や、料金改定の検討など抜本的な対策が必要である。

○ 老朽化の状況として、有形固定資産減価償却率の増加とともに、既設浄化槽の更新に向けての準備が必要となるので、計画的な資金の確保が求められる。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業だけの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。